

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0316
施設名	かすみ台第一保育園
施設所在地	東京都青梅市大門2-253
法人名	社会福祉法人かすみ福祉会

1.活動のテーマ

〈テーマ〉

米（5歳児クラス）

〈テーマの設定理由〉

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

- ・普段食事をしている米がどのように育っているのか、米を育てる大変さを学び、改めて食への感謝を抱いて欲しい思いから、取り入れた。

2.活動スケジュール

- ・6月上旬、バケツを使った稻植えを行う。地域との交流を目的とし、JA西東京の方と一緒に取り組んだ。
 - ・7月、8月は経過観察。必要に応じて水やりを行う。
 - ・8月下旬、鳥対策として布や新聞紙等を使ってカカシ作りを始める。全員分をバケツの稻の側に飾った。
 - ・9月は引き続き経過観察を行う。
 - ・10月上旬、稻刈りを行う。6月に交流を図ったJA西東京の方と再び一緒に取り組んだ。
 - ・10月中旬以降、牛乳パックを使った脱穀やすり鉢を使ったもみ取りなどを体験する。
 - ・11月上旬、玄米にした米を使っておにぎりを食べる。「おにぎりパーティ」と題しておやつで食べた。
 - ・12月上旬、収穫時に出た藁を使ってしめ飾り作りを始める。完成した作品を廊下に装飾し年末年始前にご家庭へ配布した。
- また交流を図ったJA西東京の方へプレゼントするため、足を運んだ。

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・稻植え用バケツ　・稻用の土　・米用の苗　・稻　・カカシ用の布や割り箸　・牛乳パック
- ・軟式ボール　・すり鉢　・牛乳瓶　・脱穀用のバチ　・スズランテープ　・松ぼっくり
- ・ドライフラワー　・水引　・半紙・麻紐　・和柄、金の折り紙

4. 探求活動の実践

〈活動の内容〉

- ・米に関する絵本や図鑑を常に見れるよう絵本コーナーに設置し、カカシの設置や収穫時期などに応じて読み聞かせを行った。
- ・カカシ作りでは、シーツの切れ端や割り箸を用いり自分たちが思う鳥退治方法をイラストで表現した。
- ・脱穀やもみすりなどを通して、昔の方法で疑似体験を行った。
- ・完成した締め飾りをJA西東京の方へ届けることで、更なる交流を図った。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り〉

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・脱穀やもみすりを通して、一粒が貴重であることが分かり米が出来るまでの苦労も実感していた。その際に炊飯器で簡単に炊ける現代と比べると、昔の方法は大変であったことを知らせたが子どもたちなりに理解し共感していた。
- ・収穫後は、藁を締め飾り作りとして利用した。子どもたちには締め飾りから関連して年末年始の導入が行え、歳神様を迎える準備として気持ちが乗っかっていた。保護者にとっては、米作りから締め飾り作りまでの流として活動していることに驚き、手作りの締め飾りが自宅に飾れることに非常に喜んでいた。
- ・締め飾りをJA西東京の方へ届けた際には喜ぶ様子が見れたり店内を案内してくれ、貴重な体験ができて喜んでいた。



5. 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・今年は猛暑により生長が上手くいかず稻が枯れてしまったが、根気よく水を張り続けると新たな芽が生えた。保育士にとっても貴重な発見となった。
- ・JA西東京の方との交流を図ったことで、お互いに良い印象を持てた。年末に合わせて手作り締め飾りを贈呈することを計画すると子ども達も賛同し、顔を思い出しながら作成したりと活き活きしていた。交流としての目的も良い経験となった。